

## 令和2年12月近江八幡市教育委員会臨時会(要旨)

1. 開催日時 令和2年12月10日(木) 午後5時30分～6時40分

2. 開催場所 教育委員会2階 会議室

3. 出席委員

教育長	日岡 昇
教育長職務代理者	久家 昌代
委員	八耳 哲也
委員	安倍 映子
委員	西田 佳成

### 4. 事務局出席者

教育部長	西 川 仁 司
教育部次長兼教育総務課長	秋 山 直 人
教育部次長兼学校教育課長	森 茂 次
教育総務課長補佐	菌 田 毅
教育総務課長補佐	畑 明 宏
教育総務課副主幹	澤 千 央

5. 会議を傍聴した者 0人

### 6. 会議次第

#### 【議 案】

○議第67号 近江八幡市立安土小学校の整備地の選定について

### 7. 議事の経過

#### (1)開 会(日程確認)

- ・教育長が12月臨時会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認

#### (2)議事

◆議第67号 近江八幡市立安土小学校の整備地の選定について

## 【事務局説明…教育総務課】

事務局としては1日も早く、子どもたちのために整備地について方向性を示したいと考えている。

近江八幡市立安土小学校の整備地の選定については、7月に近江八幡市立安土小学校整備地選定委員会を設置し、資料にある選定委員会の他、選定委員会選出団体における説明会等において説明してきた。この間、事務局としては、現地・移転地のどちらに偏ることもなく、それぞれの候補地のメリット・デメリットの他、委員や説明会出席者の質問に回答し、公平公正に正確な情報を提供してきた。

この度、12月2日の第4回選定委員会において、委員8名により投票が行われ、整備地を移転候補地とするという方向性が出され、昨日、委員長の寺村安土小学校校長より、日岡教育長に報告書が提出された。事務局としても、第4回選定委員会の結果を尊重し、本日議案として提案させていただいた。

別添資料に選定までの検討経過を記載している。これらについては都度説明しているが、改めてこれまでの経緯を説明する。

7月29日の第1回選定委員会に始まり、12月2日の第4回選定委員会までの間、4回の選定委員会に加えて、選定委員選出団体が開催した説明会に出向き、比較検討資料の説明を行った。PTAや保護者会にも説明をしたが、説明会開始時間等により欠席者が多かったため、当日資料を当日の質疑応答資料とともに、園及び学校の全保護者に学校を通じて送付した。

まず、7月に選定委員会を設置。

これについては6月教育委員会定例会でお諮りさせていただいた。

7月29日、第1回の選定委員会を開催。

安土小学校の現状の課題等を踏まえつつ、それぞれの候補地における建替え基本構想、概算事業費も含めた比較検討状況について教育委員にも以前お渡しした検討説明書の説明を行った。

その後、出席者から約6億円の事業費の差の理由は何か、移転候補地のボーリング調査の結果はどうであったか、通学距離がどれくらい変わるのかといった質問が出された。

事務局からは、各委員の選出団体が主催する会議があれば、それに合わせて資料の説明にお伺いするので声を掛けてもらいたい旨も伝えた。

8月7日、早速、常楽寺の自治会長会で資料を説明してもらいたいとの依頼を受け説明を行った。

ここでは、移転候補地は浸水想定区域となっているが他に候補地はなかったのか、対策はどのように考えているのか、移転候補地には跨線橋の近くに入出入口を設けるのは危険だと考えるが進入路の確保は考えているのか、過去から一体整

備の議論があったがどうなったのか、仮に移転となった場合、跡地利用はどのように考えているのかといった意見や質問が出された。

8月22日、安土学区の自治連合会が、桐原小学校を視察、その後、依頼を受け、資料の説明を行った。

ここでも、浸水想定区域への対応、跡地利用、通学路の交通安全対策等の質問が出された。

9月2日午前中に安土幼稚園、夕方に安土小学校の各PTAに対し資料の説明を行った。

ここでも、浸水想定区域への対応、跡地利用、通学路の安全対策、現地となった場合のプレハブ校舎の環境やグラウンドが狭くなるための対応等の質問が出された。

9月14日、第2回の選定委員会を開催。

第1回の委員会で出された通学距離についての資料説明を行い、各団体への説明後、どのような意見が出されたか確認した。

その上で、再度、各候補地のメリット・デメリットについて説明をした。

各団体の意見としては、小学校と幼稚園のPTAがアンケートを実施されていたため、その結果を中心に報告された。

アンケートには、浸水想定区域への対応や通学路の安全対策といった移転地におけるデメリットや、グラウンドの狭さ、駐車場不足といった現地におけるデメリット、これらに対する対応策が明確でないため現時点では判断しにくいとの意見があった。

また、この8名で決定するのは責任が重すぎるため住民投票にしてはどうかとの意見も出された。

翌日の9月15日には、安土保育園の保護者会の説明会に出向いた。

ここでも、浸水想定区域の対応はどうするのか、通学路の見直しは現地となった場合にプレハブ建設によりグラウンドが狭くなるが対応策はどうするのか、学童を併設する予定はあるのか、跡地利用はどうするのかといった質問が出された。

9月24日には、安土学区まちづくり協議会幹事会の説明会へ出向いた。

ここでは、それぞれにメリット・デメリットがある中、一つの意見としてまとめるのは難しいのではないかと、どちらかを早く決めた上で地域一丸となって進めていく必要があるのではないかと意見が出された。

10月23日、第3回の選定委員会を開催。

各団体の状況をお伺いするとともに、各候補地のデメリットへの対応策の資料、想定通学路の資料、浸水想定区域の現状の資料、現地での用地拡大関係の資料等を説明した。

また、質問ご意見を踏まえ委員会としてどのように最終決定するのかなど協議していただき、委員記名投票の多数決により決定することとなった。

ここまでの、選定委員会及び各説明会開催の経緯である。

ここで、各団体から多く質問された内容に関する回答も含めたデメリットへの対応策等について、本日の資料とともに説明させていただく。

#### **添付資料**

- 資料 1 : 各候補地における建替事業の評価および対策（項目別の一覧表）  
「安土小学校地区別通学距離（直線距離）」及び「地図」
- 資料 2 - 1 : 滋賀県防災情報マップ 200年確率  
滋賀県防災情報マップ 100年確率  
滋賀県防災情報マップ 10年確率
- 資料 2 - 2 : 滋賀県防災情報マップ 琵琶湖が氾濫した想定
- 資料 3 : 安土コミセンを小学校駐車場として整備した場合の航空写真
- 資料 4 : 安土小学校移転候補地想定通学路
- 資料 5 : 「現在地」の航空写真
- 資料 6 : 現地整備案 4階建校舎
- 資料 7 : 安土小学校比較資料校舎面積考え方  
「近江八幡市立安土小学校整備地選定委員会の選定結果について（報告）」

#### 資料 1 について

##### ●立地条件（洪水、地震、交通安全等）

移転地への建設となると、立地条件が浸水想定区域内となるが、その対応はどうなるのかという質問も多く出された。これについては、立地条件「洪水」の項の対策方法にもあるように盛土をし、かさ上げをすると回答した。

また、「地震」の項にあるように、移転地においては、現地と比べ軟弱地盤でもあるため、地盤改良で対応する。移転地での通学路の安全対策については、学校と地域と PTA で最終的には決定してもらうことになるが、高架下への迂回等現状ある道路で万全の対策をとらせてもらう。移転地への進入路確保についても警察と協議しながら安全な進入路となるよう努力すると回答した。

また、跡地利用についての質問も出されたが、これについては協議しながら進めていく。市長より、現地の売却はないということなので活用をしていくという回答をした。

●計画（校舎規模、屋内運動場規模、グラウンド規模、駐車台数等）

校舎、屋内運動場、グラウンドの規模については、設置基準はそれぞれ満たしているが、現地の場合かなり狭くなる。駐車場についてもかなり不足しているということなので、現地建替の場合、安土コミセン用地の活用、立体駐車場の整備等が考えられるが、それに対する課題（安土コミセンの移転、用地買収に対する地権者の協力等）がある。

●児童の負担（仮設校舎、グラウンド、工事の影響、通学距離）

現地建替の場合、仮設校舎が必要となり、それによりグラウンドが一層狭くなり、工事の影響も受ける。グラウンドは移転地の方が広くなる。また、通学距離がどれくらい変わるのかという質問も出されたが、移転地となった場合、現状より通学距離が遠くなる児童が増える。

●概算事業費

現地建替は約31億4千万円、移転建替は、約37億1千万円となり、移転地の方が高くなる。約5億7千万円違う。

資料2について

通学距離については、移転地になると一人当たり 約140m遠くなる。

資料2-1について

浸水想定区域ということで、滋賀県防災情報マップを添付。

200年に一度の大雨が降った場合、浸水深さ1.39mとなる箇所がある。

100年に一度の大雨が降った場合、浸水深さ1.16m、10年に一度の大雨が降った場合、浸水深さ0.5mになると予想されるという図である。

資料2-2について

琵琶湖が氾濫した場合では、浸水深さ1.53mとなっている。

ただし、岡山小学校もこの移転地と同様の浸水想定区域、地盤であったが、実際建設されており問題ないと考える。

資料3について

安土コミセンを小学校駐車場として整備した場合134台駐車可能であるという写真と図である。しかし、そうなった場合は、安土コミセンはどこに移設するのかという問題が出てくる。

資料4について

今ある道路で、どこを通れば安全に通学できるか検討したもの。跨線橋の下を通学するのが安全であると提案している。

### 資料5について

現地の航空写真である。

赤色実線囲み…現在地の敷地面積

水色点線囲み…移転地と同等の面積

現地で移転候補地分を確保しようと思うと、これだけの住宅に立ち退いてもらうことになる。現実的には難しいと考えている。

赤色点線囲み…買収想定区域

### 資料6について

現地となった場合は、4階建て校舎を予定。(上図)

岡山小学校規模の校舎を建設しようした場合の比較資料も一緒に掲載。(下図)

岡山小学校規模の校舎は難しい。岡山小学校は真ん中が吹き抜けとなっており、その分の広さが必要となるが、それだけの広さがない。現地では、近年、市内に新しく建設されているような校舎は厳しいとの校長からの意見もあった。

### 資料7について

4階建て(6,250㎡)と3階建て(6,200㎡)の延床面積について比較したもの。延床面積は50㎡しか変わらない。50㎡の違いは階段部分によるもの。

次に、先日、委員長から報告された近江八幡市立安土小学校整備地選定委員会の選定結果について説明する。

委員8名の記名投票の結果、移転地7名、保留1名となり、多数決により整備地を選定された。

「整備地については移転候補地とする」とあり、4点の付帯意見があるもの。

4点の付帯意見とは、①通学路を含めた交通安全に関すること②浸水想定区域への対応③小学校の跡地について、④市としての方向性が決定された後、住民説明会を開催すること。

### **【質 疑】**

#### ○八耳委員

机上だけでなく現地視察や説明会も行ってもらい、アンケートの回収も行われ、多くの意見等を聞かれたと思うので、具体的な報告があればお願いしたい。

#### ○事務局

幼稚園の1回目のアンケート回収率は79%。 移転地 63% 現地 37%

2回目のアンケート回収率は77%。 移転地 60% 現地 40%

小学校の1回目のアンケート回収率は66.7%。 移転地 61.7% 現地 38%

2回目のアンケート回収率は68.7%。 移転地 57.3% 現地 41.4%  
(計100%にはならず)

学校評議員(9人)

移転地4人、現地3人、欠席1人、棄権1人。

安土学区自治連合会(自治会会長のみ34人)

移転地22人、現地7人、保留1人、未回答4人。

まちづくり協議会幹事(18人)

移転地17人、現地1人。

これらを受けて、代表の委員は投票された。

○八耳委員

アンケートに意見はなかったのか。

○事務局

アンケートは数値しか把握していないが、先ほど説明したとおり、移転地については浸水想定区域への対応や通学路の安全対策、現地についてはグラウンドの狭さや駐車場不足といったことに対する意見が多かったと第2回の選定委員会では報告された。

○安倍委員

アンケートの1回目と2回目の数値を聞いていると、2回目は1回目に比べて移転に対し躊躇されているように思うが、どのような資料を提示されたのか。

○事務局

1回目は、説明資料と説明会での質疑応答を全保護者に配布していただいた。

2回目は、デメリットへの対応策も配布していただいた。

PTAの代表からは、水害や交通安全対策がきちんとされていれば、当然移転が多くなると想定されると聞いていた。琵琶湖が氾濫したら、ハザードマップでは2m浸水するため、2mかさ上げするなど具体的に資料に書いた方が良かった。説明会等では、その旨説明した。

○安倍委員

住民や保護者にとって浸水想定区域が1番の不安定要素であり、次に通学路が不安定要素かと思う。

災害に対して想定外のことを想定せよと地域でも学校でも言われている。正しく知ることと、そこから様々なことを想定しようとした時に、色々な情報が氾濫すると、本当に安全なのかと不安になる。専門的に見た内容は、住民にしっかりと伝わっているのか。

○事務局

調査を依頼した専門業者の報告書によれば、沈下はしにくい、液状化が発生する可能性は低いと報告されている。

実際に移転地に学校が建設されるとなれば、実際に校舎が建設される場所に対し、もっと詳しい調査が必要であると考えている。しかし、そこまで説明できないのが現状。

○久家委員

現地となった場合、子どもたちにとっては、授業中に工事が行われると思うが、騒音や危険(工事車両の出入り)に対するの質問はなかったのか。

○事務局

そのような質問は一切出なかった。

逆に事務局からは資料1により説明したが、騒音や工事車両の出入り等への危険性といった内容の質問は地域からは出なかった。プレハブ校舎とはどのようなものか、グラウンドが狭くなることへの対応はどのようにするのかといった質問はあった。

○西田委員

選定委員の方はご苦労され、感謝している。

現地建替案で、用地拡張のため資料5の航空写真のように土地を買収する場合、資料1の事業費に買収金額は含まれているのか。

○事務局

含まれていない。全ての方が立ち退いてくださった時には、かなりの高額になると思われる。そのため、現実的ではないと考えている。

○西田委員

資料5の航空写真を見ていると、買収となった場合、かなりの軒数があり、その中には病院もある。そうすると、買収金額を含むと事業費は現地建替案を超えることもあるかもしれませんね。

○八耳委員

資料1で校舎、体育館、グラウンド規模は、現地も移転地もどちらも基準は満たしているとあるが、子どもたちは現在の校舎をどのように感じているのか。子どもたちのアンケートのようなものはないのか。



○事務局

子どもたちのアンケートはない。

○八耳委員

やはり、どちらになるにしても子どもたちが主役なので、今の状況を子どもたちがどう感じているのか知りたいと思った。

○事務局

校長先生を委員に入れさせてもらったのは、子どもたち、教師たちがどう思っているのかも知りたかったからということもある。子どもは与えられた場所で慣れていくものかもしれないが、広いところを見せてあげれば、子どもたちはいいなと思うだろう。

○教育部長

確かに文部科学省の設置基準としては満たしているが、市内の他校、例えば桐原や岡山小学校と比べると狭い。不公平感が生じるのではないかと心配する。

○安倍委員

直線で100m取れないのに、基準値を満たしているのか。

○教育部長

基準は面積だけであり、直線距離は関係ない。

○安倍委員

基準に達するかどうかよりも、やはり100mが直線で取れないというのはどうかと思う。中学校に行ってからのことやこれから琵琶湖国体も予定されている中で、運動に関わる教育環境を整えるという点から考えた時にこのグラウンドでよいのかと感じた。運動会でも、走者がしっかりと見えず応援者と走者が一体となれない、保護者の応援もどこからするのか、変則的、安定性がない環境のように思う。

○教育長

100mが走れないというわけではない。ただ直線ではなく、トラックで100m走をされているのが実態。市内の他校と比べると、基準はクリアしているかもしれないが、グラウンドが狭いことを指摘される委員もいた。

○安倍委員

現小学校では、昇降口のすぐそばに先生の車が駐車してある。敷地が狭く仕方ないということなのかもしれないが、子どもたちへの危険度は高い。現地の場合、駐車場の間

題が意見としてある。学校から遠い場所に駐めるという案もあるが、先生の車も来校者の車も学校の敷地内に安全に駐めることが出来るということも大切ではないか。

○西田委員

一番大事なことは子どもたちが喜ぶという部分ではないか。環境というものは、大人が整えるべきであり、きちんとしたものを整えてあげるのが大人の責任であるとする。子どもたちのために何が一番かを考えるべきである。

○久家委員

文部科学省より、学級の編成を40人学級から30人学級にという動きがある。現地建替で、この30人学級が実現しクラス数が増えた場合、これに対応できるのか。

○事務局

安土小学校の全児童数推計

R2年度:606人、R3年度:604人、R4年度:615人、R5年度:581人、R6年度:574人、R7年度:535人、R8年度:520人。

○教育長

他学区に比べ、児童数が大きく減少することはないが、R3年度推計で、30人学級となった場合どうなるのか。

○事務局

R3年度:通常19学級、特別支援5学級、計24学級。

これが30人学級となると、通常22学級、特別支援5学級、計27学級となる。

○教育長

増級するためには、上にのぼすしかないが、危険性も出てくる。

○事務局

日照権等の問題もあり、どれだけでも高くできるというものではない。校舎の高さにも限界がある。

○安倍委員

特別支援学級は、今後、現在の5年後の見通しを超え、安土小学校への転入生も含め増えることが予想されるため、増級に対しての対応は必要であるとする。

○事務局

全体的に様々なケースが年々増えてきており、増級の対応は考慮していく必要がある。

ると考えている。

#### ○教育長

インクルーシブ教育、特に小学校は交流を中心に行われているということ、それらの人数をどのように考えるのかといったことも含め、教室は今後まだまだ必要になってくると思われる。

#### ○八耳委員

安土小学校に関わらず、公立小学校は地域に根差した、地域とともに歩いていくものである。その点については、これだけ安土の方々が、小学校建設に関心があり、熱心に取り組んでいただいておりますことである。

様々な意見がある中で、選定委員会を設け、委員会が公平公正に検討されたと感じた。8名中7名が移転という数字的にも明らかであり、委員会の報告は、尊重すべきであると思う。

ただ、付帯意見①～④は大事なことであるため、「万全を期すこと」と書かれている部分は不安に感じておられる部分であるとも言える。そのため、その部分については、岡山小学校の例を出すなど具体的に、安心してもらえる情報を提供することが必要であると思う。今後、学校は地域の避難所にもなっていく中で、子どもにとっても地域にとっても安心安全であるという部分についての積極的な発信をしてほしい。

最終的には、財政面からも市長決定によるものが非常に大きい。

そのため、このようにこれまで積み上げていただいた、この報告については市長においても最優先に受け止めていただきたいということをぜひ教育委員会として伝えてほしい。

#### ○安倍委員

選定委員会の方々の議論はあらゆる角度から意見を述べ合い深いところまで心を傾けながら議論されたと感じている。十分な話し合いの経過をもって進められたことは貴重であると捉えたい。

どちらが良いのかと考へ、検討を重ねていただいた結果、子どもたちのよりよい教育環境には広さも大切であり、それも含めて考えていくことが大事であると委員の皆様が移転地と出されたことを覆すことはありえない。大事にしたい。より早く子どもたちのために進んでほしい。

ただ、安土小学校120年の歴史の中で、この場所から離れることに対しアンケート結果からも見えるように約40%の方々は苦痛さ、悲しさ、しんどさを抱えておられる。関係がこじれるのではなく、地域に開かれた小学校、地域と信頼関係を持ちながら地域とともに子どもを育てていこうという体制がみんなとれるように、教育委員会としては求めていきたい。地域に開かれた学校運営を地域みんなが進めていけるようお願いしたい。

○八耳委員

付帯意見③の小学校跡地については、教育委員会だけでは決定できないことですよね。移転地の方向が進むとなれば、市長部局、教育委員会ということではなく一つとなって市として事業を進めていかなければならない。

○教育長

議会でも移転地となれば、通学路の拡張等の道路の問題も出てくるなどの意見が出された。関係課とともに進めていくと議会でも答弁した。

**【採 決】**

議第67号 近江八幡市立安土小学校の整備地の選定について

近江八幡市立安土小学校の整備地を移転候補地とすることに全員一致で **承認**

8. 閉会                   教育長が12月臨時会の閉会を宣言